

# I. 「生物・心理・社会モデル」を用いたアセスメント

## その2



# BPSモデルによるアセスメントと支援計画作成の流れ

## インテイク【情報の収集・整理】

情報を集める

記録する

## アセスメント【評価】

理解する

解釈する・推測する

支援課題を挙げる

## プランニング【支援計画の策定】

対応方法を考える

誰が、いつ、どのように？



## インタビュー【情報の収集・整理】

- 見たこと、聞いたこと、データなどが対象
- 収集した情報の要点を簡潔に書く → **ポイントフォーム**
- 見たこと・聞いたこと・データをそのまま、**評価を交えずに記述**する

例1：タナカさんはこの件について、「彼女にはこうするものだから。相手も嫌とは言わなかった」と話した。

例2：タナカさんはこの件について、「彼女にはこうするものだから。相手も嫌とは言わなかった」と話し、**自己正当化が著しい**。

- 【家族状況】 【生活歴】 【犯罪行為・刑事司法とのかかわり】 などの**見出し**をつける → 閲覧のしやすさ
- ここに書いたこと = **アセスメントの材料**



## アセスメント【評価】

- わかった（と思われる）こと、推測したことは何か？
- インテイクに記述した情報を「**生物的なこと**」「**心理的なこと**」「**社会的なこと**」に分ける
- **仮説を組み立てる = 見立ての過程 ←ここが重要！**

「○○○であったことから、～のではないか」

例：幼少時に父親からの暴力、兄からの暴力を経験していることから、男性に対しては安心感を抱きにくいのではないか。

- 仮説に関する補足も記録する

例：兄から誘われて万引きを繰り返していることから、迎合性、被暗示性が高いのではないか。（**一方で兄以外との共犯関係がないことをどう考えるのか →規範意識の表れ？ 社会関係の狭さ？**）

- どこに分けるか迷うとき →とりあえず**仮置き**する



## プランニング【支援計画の策定】

➤ 前段階：支援課題（支援が必要なこと）を挙げる

➤ 生物・心理・社会的要因のつながりを考える

【B】アルコールへの耐性が出来てきている可能性

【P】愛着に関する課題、人に対する不安感・不信感、仕事に対する自信のなさ

【S】父親の飲酒習慣から、アルコール使用に関する理解に偏りのある可能性

→支援課題④タナカさんに対する依存症に考慮した支援の必要性を判断すること

➤ 支援課題に対応するために、**やろうと思うこと**は何か？

➤ 実際には、「**誰が**」「**いつまでに**」「**何を**」**するか**を決め

ることが重要。特に多機関連携と役割分担の明確化

➤ 心理教育、トラウマインフォームドケアなど


→連携先の開拓、ネットワーキングの重要性



## 犯罪行為自体より、背景要因に目を向ける

- 福祉による支援の目的 ≠ 「再犯防止」
- 社会的孤立や生きづらさの改善・解消 → 本人が犯罪をしなくていい生活 → **結果としての再犯防止**

## タナカさんのケースの背景要因の例

- 本人と家族の社会的孤立
  - 家族からの暴力、いじめなどによる被害体験  
→ 対人関係の困難、他者との境界に対する認識の問題
  - 知的機能（+その他の発達？）の障害
  - 適切な人間関係・関係づくりを学ぶ機会の欠如
  - アルコールなどへの依存の可能性
- などなど 

## Ⅱ. 対象者理解のための5つの視点



当事者をよりよく理解するための5つの視点：  
タナカさんのケースでは...

発達

社会的孤立

愛着

依存（症）

トラウマ





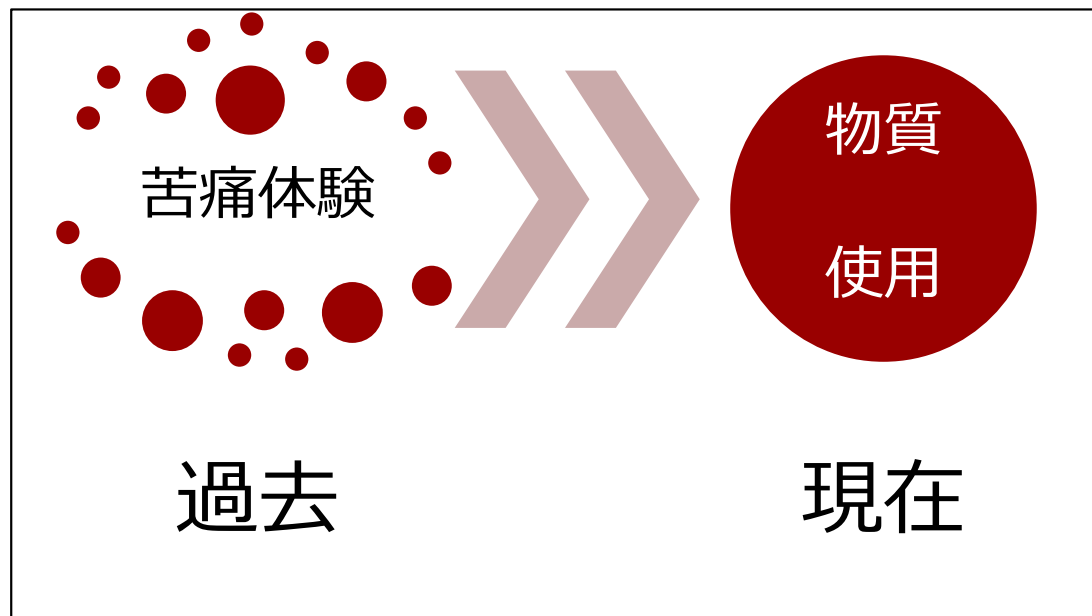
## 支援にあたっての留意点

<b>発達</b>	知的機能、適応機能、感覚機能、注意・記憶、学習、言語・コミュニケーション（未理解同調性）、対人関係などへの影響の状態把握と適切な対応 → 構造化、視覚化、単純化など
<b>愛着</b>	人への信頼感、新たなことへの挑戦に課題 → 学習性無力感、安全な環境への不安
<b>トラウマ</b>	トラウマインフォームドケア → トラウマを治療するのではなく、トラウマによる影響に配慮した支援。支援者のトラウマにも注意
<b>依存（症）</b>	物質を使用しないこと・行為をしないことが目標ではない → 次スライド参照
<b>社会的孤立</b>	人・社会資源との繋がりを増やすこと。一方で現代社会における孤独の問題と深い繋がり



## 依存症の「自己治療仮説」【復習】

- 1985年に心理学者カンツィアンが提唱
- 「人が依存症になるのは、無意識のうちに自分の抱える困難や苦痛を一時的に緩和するのに役立つ物質を選択した結果であり、究極の『自己治療』である」



## タナカさんがアルコールへの依存がみられる状態だったら...

➤ 「タナカさんが**アルコール**を飲むのは、無意識のうちに、  
**これまで自分が経験してきた苦痛やしんどさ、他人との関係の作りづらさ、自分を取り巻く状況の分かりにくさ**、といった、自分の抱える困難や苦痛を一時的に緩和するのに役立つ物質を選択した結果であり、究極の『自己治療』である」

→ ✕ 「やめられないほど好き」「意志が弱い」という捉え方

→ ✕ 「酒は体に悪い」「どうしても我慢できないなら、特別な時だけ飲んだら」という言葉かけ



- ○ 苦痛をコントロールしようとして、生じている
- ○ これまで自分が経験してきた苦痛やしんどさ、他人との関係の作りづらさ、自分を取り巻く状況の分かりにくさ、を軽減するためにどうすればいいのか

### いくつかの留意点：

- ✓ 再使用・行為の再発は、回復のプロセスの一部
- ✓ 「本人の意思」と「意思の通りに行動できるか」を分ける
- ✓ 本人と支援者の安全確保を考える

